

# 町村探訪 本県観光の一方の雄

## 大輸送動脈の完工相次ぐ

### 田 沢 湖 町



国道開通以来爆発的人気を呼んでいる田沢湖

ことしの七月十八日、仙岩峠を經由して秋田、岩手両県を直結する一級国道四十六号線の開通式が行なわれた。この国道は往昔交易ルートであったとはいえ、急坂が多くやつと人と馬が通れる程度の道で、一世紀ぶりに脚光を浴びることになった。

そしてその県境に位置するのがこの田沢湖町であり、秋田県側の宿場として古くから開けた生保内である。

#### 変わる物資流通機構

風光明媚な山間地帯を縫う大スカイラインは『南八幡平パークライン』と命名された。この国道開通による両県の観光と経済の質的な交流はすでに目を追って活発に行なわれている。

また生保内から岩手県の雫石まで国鉄生橋線の建設が昭和四十一年度の完工をめざして進められているが、国鉄鷹角線の完工も含めての将来、これらの輸送動脈により産業を中心とする大きな「うず巻き」は本県の強

力な新エネルギーとなることは必至だ。

田沢湖町は、流通経済面ではいわばポケットのなかにあり、ともすればこれまで産業面で立ち遅れをみせていただけに、広域経済に対処する期待も大きい。が、反面、秋田、岩手間の「経済自由化」といわれる目に見えない荒波をどのように乗り切るか、地域のあらゆる業界に与えられた課題は大きい。

すでに盛岡の製菓業者によって観光みやげ品としての「南部せんべい」がどんどん田沢湖町に卸されているなど、その影響は日常雑貨品のはてまで現われている。もっとも影響を受けるのは「魚」と「野菜」ということになりそうだ。ことに魚は花輪線あるいは横黒線経由ではないって来たが、こんどは峠を越えてはいって行くことは間違いなので、町では総合市場の建設問題で協議しているが、「卸し売り式」をつくるか、それとも小売りをかねた「マーケット式」のものにするか検討している。

田沢湖町側から移出されるもののうち、有望視されるのはブナ材であろう。玉川流域は、広葉樹の密林地帯で、玉川国有林の蓄積は約八、五〇〇立方メートルという全国一のブナの宝庫として着々森林資源も開発されつつあ

る。岩手県は材木に恵まれないだけに、豊富な木材を枕木、フローリング、ベニヤ板などの半製品としてどしどし売り込むべく、業者たちは設備の拡張など真げんに考えている。

#### 観光開発に一段の力

だが田沢湖町側の強味はなんといっても、豊富な観光資源があることだろう。事実四十六号線開通後、表日本側から訪れる観光客はめだつてふえてきた。

仙岩峠を南限として北方に連なる十和田八幡平国立公園の山岳美、湖水と溪谷の田沢湖抱返り県立公園——。この二大公園を背景とした自然環境にある田沢湖町は、まれに見る変化に富んだ公園のまちである。

深さ四二五メートルという世界屈指の田沢湖は日帰りの行楽に好適だし、八合目までバスで行ける指定天然記念物の群生地帯をもつ駒ヶ岳や、山頂が断がい状をなしている乳頭山へのハイキングは若人の魅力に違いない。ひなびた山のいで湯情緒に人生の疲れをいやす乳頭温泉郷の鳩ノ湯、新鳩ノ湯、鶴ノ湯、黒湯、蟹場、孫六湯、大釜、妙ノ湯など豊富な温泉群は数え切れな。神代駅から東へ二キロには紅葉の名所抱返り溪谷があり、この上流には夏瀬温泉もある。